

風車

紀州の歴史と文化の風

特集

出土遺物の整理作業

発掘調査報告書が完成するまでの裏側を紹介



特集

出土遺物の整理作業

発掘調査報告書が完成するまでの裏側を紹介

整理作業業務について

発掘調査は現地の調査が終わったからといって完了という訳ではありません。調査で出土した遺物^{いぶつ}について整理作業を実施し、現地調査や整理作業を通して得られた知見を反映させた発掘調査報告書を刊行する必要があります。『風車』では発掘調査の報告を中心に掲載してきましたが、今回はこれまであまり触れられてこなかった整理作業の実態を報



写真1 整理作業状況



写真2 水洗（土器）



写真3 注記（土錘）



写真4 注記した土器

告したいと思います。報告にあたっては、実際に整理作業を担っている整理作業員たちの生の声もお届けしたいと思います。

水洗作業

発掘調査で出土した遺物は土にまみれていますので、まずハケや筆などを用いて水で土を洗い流す作業からはじまります。脆くなっている土器は表面を傷めてしまわないように

慎重さが求められます。

【整理作業員Yの証言】粘土質の土が土器にこびりついている時は大変。冬にお湯を使う時、すぐに冷たくなるので頻繁に水を替えるのも苦勞の一つ。

注記作業

遺物はそのままではどこから出土したものがわからなくなってしまうので、出土地点などの情報を筆とポスターカラーなどを使って書き込んでいきます。当センターではコード番号（年度・市町村番号・遺跡番号・遺物登録番号）を書き入れます。

【整理作業員Kの証言】文字の大きさをできるだけ小さく書くのが熟練の技。

登録作業

出土した遺物について登録台帳を作成する作業で、出土地点や取上げ日、登録番号のほか、遺物の種類や点数なども記入してパソコンに入力していきます。

【整理作業員Uの証言】遺物の種類や年代を正確に記録することを心掛けています。



写真5 登録作業



写真6 接合（埴輪）



写真7 補強（須恵器）



写真8 復元（土器）

接合・補強作業

土器の破片を接着剤でつなぎ合わせる作業です。ジグソーパズルのようですが、すべての破片がそろっているとは限らず、元の形を想定しながら接合していきます。

【整理作業員Oの証言】土器の断面を洗いきざるとうまく接合できないので洗う時から注意しています。大きい土器を接合する時は大変で、少しのズレが後々大きなズレになるので、きっちり接合するようにしています。

復元作業

接合が終わった土器について、実測や展示ができるように、破片がなかった部分を石膏などで埋めていく作業です。最後にその表面を滑らかになるように削っていきますが、力をいれすぎて割れてしまわないように慎重に作業していきます。

【整理作業員Sの証言】削るタイミングの見極めが大事です。形がわかりにくい土器は実測図を見ながら復元しています。

実測作業

報告書に掲載するために土器などの遺物について実測して図面を作成する作業です。遺物の外形や断面だけでなく、製作時の工具を使った調整の痕跡なども正確に実測します。実測図には大きさや色調など実測時に観察した情報も記載していきます。

【整理作業員Wの証言】製作技法などをよく観察することに注意して、それを正確かつ特徴的に実測図として表現することが難しいところでした。



写真9 実測（土器）



写真10 実測（木製品）

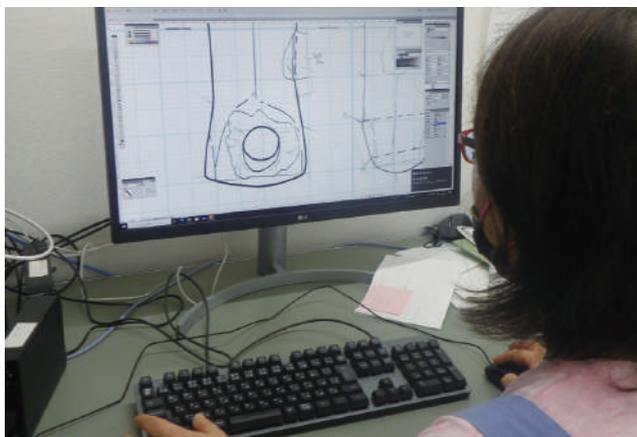


写真11 デジタルトレース（土錘）



写真12 写真撮影（土器）

デジタルトレース作業

現地で実測した遺構平面図・断面図や土器などの遺物実測図を報告書に掲載できるように清書する作業です。数年前まではペンを使ってトレースしていましたが、時代の流れに逆らえず最近ではパソコンを使ってトレースするようになりました。

【整理作業員Mの証言】線の太さを決めるのに土器の調整などを理解する必要がある、ただ単純に線をなぞるだけの作業ではありません。

写真撮影作業

報告書に掲載するために遺物を写真撮影します。遺物の影が少なくなるように、また、土器などの調整がはっきりわかるように、ライトの角度を変えながら撮影していきます。

【整理作業員Saの証言】遺物のアングルとライティングを考えて遺物をセッティングするのに時間がかかります。あと、破片がうまく水平に据えるのににはテクニックが必要です。

組版作業

トレースした遺構や遺物について、報告書用として1ページにうまく収まるように実測図を貼り付けて図版を作成していきます。かつては実際にトレースした紙を台紙にのりで貼っていましたが、最近ではデジタルトレースしたデータをパソコン上で配置していきます。

原稿執筆・編集作業

組版作業や写真撮影などが終わったら、いよいよ報告書の作成に向けて、編集や原稿執

筆となります。発掘調査や整理作業で得られた考古学的な成果を文章化していくとともに、実測図の図版や写真などを編集して報告書の体裁を整えていきます。そして、完成した発掘調査報告書を印刷して刊行し、多くの方々が閲覧できるように図書館や研究機関などに配布して一連の整理作業が完了となります。なお、当センターでは発掘調査報告書はデジタル化してホームページなどで公開して

より広く皆さんの目に触れることができますように努めています。

おわりに

発掘調査では、現地説明会などで現地を見る機会がありますが、整理作業の様子を直接見る機会はほとんどないと思います。そこで、発掘報告書がどのような経過をたどって完成するのかを順を追って説明してきました。整理作業には時間がかかる作業や熟練度を要する作業もあり、報告書が完成するまでに多くの苦難を乗り越えてきています。そのことが少しでも伝わるように整理作業員の声も合わせて伝えさせていただきました。

(仲原 知之)



写真 13 デジタル写真整理 (遺構写真)



写真 14 遺物重量計測 (石製品)

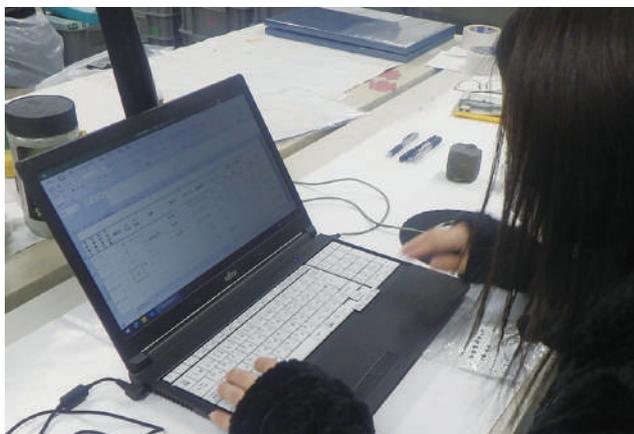


写真 15 台帳入力



写真 16 組版



整理作業員

実態アンケート調査

整理作業特集を組むにあたり、整理作業員の仕事に対する思いの一端を知ろうとアンケート調査を実施しました。

【質問①】整理作業員になった経緯は？

小学生の頃、カーターのツタンカーメンの発掘の本を読んで考古学に興味を持ち、大学で考古学研究会に入り発掘を体験し、その後発掘整理の仕事をするように。(W) / 小さい頃から歴史好きで、学生時代に古墳のレポートを書いたり現場での発掘が楽しくなったから。(U) / 前から興味ある分野だった。(K) / 発掘作業員からの流れで。(Y) / ハローワーク。何も知らないまま癒されたいと応募。(Su) / 知人の紹介。(O、M) / 退職後アルバイトに転身。(Sa)

【質問②】整理作業で一番楽しい作業は？

水洗・じっくり遺物を観察できる。何が出てくるか楽しみ。珍しい遺物の発見。(K、U、Sa) / 接合…パズルのように接合でき

なくても楽しいが接合できたらさらに楽しい。(Su) / 水洗・注記・接合・復元全て楽しい。(O) / 自分たちの仕事報告書という形で残る。(M) / 発掘で出土した土器を見た時はわくわくして早く実測したい。(W)

【質問③】整理作業で一番大変なことは？

注記…老眼のため。(K、Y) / 復元…慣れるまで時間がかかる。(Su) / どれも大変。(U) / 土器の器種や時代の把握。(M) / 接合や復元でひずんでしまい修正するのに苦労した。(W) / 脆弱な土器の接合。(Sa)

【質問④】整理作業で一番の注意点は？

正確かつ丁寧に。大胆かつ細心に。(K、Y) / 遺物を大切に扱う。(U) / 先の工程を考えて作業。(Su) / 自分だけの判断でなく他人の意見を参考に図面を仕上げる。(M) / 土器を割らないように。(O) / 遺物とラベルが離れないように。(Sa) / 現場の図面整理や実測遺物の観察など毎日の積み重ね。期間内に円滑に進むよう日々努力。(W)

【質問⑤】思い出に残る整理した遺跡は？

神前遺跡の馬鈴…初めて関わった遺跡。(K)

／鳴神地区遺跡…初めての土器実測。大日山35号墳…大量の埴輪を初めて見てどの部分の破片かわからないまま作業していくと次第にわかるようになって楽しかった。(W) / 岩橋千塚古墳群の須恵器大甕…1から復元して図面を作成。(M) / 寺内18号墳の須恵器大甕…自分で接合・復元。吉原遺跡の須恵器蔵骨器と骨片。(O) / 平井遺跡(埴輪窯跡)の馬形埴輪や円筒埴輪。(Su) / 和歌山城跡の織部焼(Sa) / 新宮下本町遺跡…知らない東海系の遺物。(U) / 丁ノ町・妙寺遺跡の縄文時代後期の石器。(Y)

【質問⑥】整理作業員で良かったことは？

完成時の満足感・達成感。(O、Sa) / 実測した土器が報告書に掲載されること。土器を実測すると時期がわかってくる。(W) / いろんな土器を見るだけでなく触れる。(Su) / 趣味と実益を兼ねている。(K) / 遺物から当時の様子を想像することができ。(U) / 知らない業界が知れて普通ではできない経験ができた。博物館では展示物の見方が広がった。いい仲間が増えた。(M)

今では使われることも少なくなってきた瓦ですが、伝統的な町並みや寺院などでは重厚な佇まいで歴史的な建物を守り続けています。古色を帯びて屋根を彩る様子にも風情があり、手の込んだ細工が施された鬼瓦や龍、唐獅子などを見つけることが出来るのも、大きな魅力の一つです。古い瓦屋根を観察していると驚くような発見もあります。そのひとつが江戸前期に建てられた、有田川町の県指定文化財観音寺下品堂です。

のどかなみかん畑沿いの道路から、土塀越しに小さなお堂の瓦屋根を眺めることが出来ます。向かって左隅に載るのは、見慣れた立体的で敵めしい鬼瓦とは様子が異なり、なで肩の薄い板の中央に文様のような鬼面が施された鎌倉時代の鬼瓦です。前回の修理の際には鬼瓦だけでなく、西側の屋根面全体に中世の瓦が用いられていることも判明しました。

瓦屋根は数十年経過することに修理が必要となるため、その際に取り替えられた様々な時代の瓦が混ざることもあるのですが、江戸時代建立の下品堂により古い中世の瓦がまとまって載せられた理由は、残念ながら分かりません。しかも下品堂に用いられている中世の瓦の品質は十分とは言えず、他の面に用いられている江戸時代の瓦とは寸法も異なることから、何やら意図が込められているようです。

想像を逞しくすると、観音寺は明恵上人の生誕地に位置し、弟子の喜海が鎌倉時代に再興した史実に思いが至ります。

先達に縁ある寺院を守ってきた象徴として瓦が尊ばれ、受け継ぐため使い続けたのでは。積み重ねられた思いに触れ得たような心地に誘われます。(多井 忠嗣)



鎌倉時代の鬼瓦

きのくに歴史小話

～きのくにれきしこぼなし～

橿原考古学研究所附属博物館で「特別陳列 ミステリー小説のなかに考古学が登場する件」(令和6年12月14日～令和7年1月19日)が開催され話題となりましたが、多くの小説・映画・マンガ・アニメ・ドラマなどで考古学者が登場しています。インディアナ・ジョーンズ(映画『インディ・ジョーンズ』やキートン・太一(マンガ・アニメ『MASTERキートン』)をはじめ、ニコ・ロビン(マンガ・アニメ『ONE PIECE』)、サツキとメイのお父さん(アニメ映画『となりのトトロ』)だって考古学者。けれど、その多くが推理や謎解きで事件を解決したり、古代文明や秘宝を探したりと、私たちの日々の仕事ぶりとは程遠いものばかり。もっと通常の働きぶりをする考古学者や文化財担当職員が登場したらいいのにとずっと思ってきました。二十数年前のNHK連続テレビ小説『あすか』は、明日香村が舞台のドラマで、和菓子職人を目指す主人公(竹内結子)の結婚相手(藤木直人)が考古学者でしたが、多少、考古学研究室の様子や出土遺物の取り扱いで現実と違う部分があると批判も受けたようで、それは私たちの仕事はまだ一般に理解されていない証明でもありました。あれから二十年あまり、現状はそれほど変わらず、未だにヒットドラマに普段の考古学者が登場することも少ないようです。最近では専門職員の採用試験に応募者が0人という所もあるようで、土偶や埴輪、古墳などがブームになるなど遺物や遺跡をアピールすることに成功している面もありますが、仕事としての魅力はアピール不足ということでしょうか。もっと私たちの仕事が楽しくてやりがいがあるんだぞ、とわかってもらえるように、そしてもっとドラマなどに取り上げてもらえるように魅力発信に努めたいと思います。(仲原 知之)

催し物案内

和歌山県内の文化財関係イベント情報（2025年春～2025年夏）

和歌山県立紀伊風土記の丘

- 特別史跡岩橋千塚古墳群保存整備事業パネル展「全長88m！天王塚古墳を復元せよ。」
2025年3月2日（日）～2025年4月13日（日）
- 春期企画展「古代人のよそおい」
2025年3月15日（土）～2025年6月15日（日）
- 展示講座「春期企画展」
2025年4月13日（日）

和歌山県立博物館

- 企画展「“写” —絵師と陶工のまなざし—」
2025年3月15日（土）～2025年4月20日（日）

※掲載内容は変更される可能性があります。詳細は各施設へお問い合わせください。



目次

- 1 表紙
- 2 特集「出土遺物の整理作業～発掘調査報告書が完成するまでの裏側を紹介～」
- 6 短信「整理作業員 実態アンケート調査」
- 7 きのくに歴史小話「文化財建造物課 和歌山の建物とゆかりの人物（7）」
「埋蔵文化財課 インディアン・ジョーンズとかトトロとかの話」
- 8 催し物案内

風車108（2025・春号）

令和7年3月31日

（公財）和歌山県文化財センター

URL <http://www.wabunse.or.jp/>

（公財）和歌山県文化財センター

【事務局】 〒640-8301 和歌山市岩橋1263番地の1
TEL 073-472-3710 FAX 073-474-2270
kanri-2@wabunse.or.jp

Instagram始めました。

ユーザーネーム：**wabunse_official**